舞　鶴

＜教育目標＞
No２　自主・自律・豊かな心

村上市立村上第一中学校　　令和４年５月30日発行

全校集会講話（5月19日）

校長　　仙　田　　健

昨年の五月晴れとは全く異なるコンディションでの一中ＷＡＬＫとなりました。それほど大雨にはならず、雷も心配ないとのことで決行しましたが、記録をみると、結果的には、昨年度よりもむしろ歩きやすかったようです。「限界に挑戦」を旗印に実施した行事でしたが、「克服する喜びの先に本当の楽しさがある」ということを実感できたでしょうか。

私は、ボランティアの保護者の皆さんに、お礼を言いながらあいさつをして回っていたのですが、印象的だったのは、皆さんの礼儀正しい態度と保護者の皆さんの心からの声援でした。明るく挨拶をして通り過ぎていく皆さんの姿から、頑張る気持ちが保護者の方々にもしっかりと届いていたと思います。

また、ゴールでは、先生方も生徒も一緒になって、挑戦を終えて戻ってきた生徒たちに惜しみない拍手を送り、頑張りを讃える姿を見ることができました。その場の雰囲気は本当に温かく、まさに感動以外の言葉が見つからない、そんな幸せな時間を過ごさせてもらいました。私にとっての最後の一中ＷＡＬＫでしたが、たくさんの元気と感動をもらうことができました。本当にありがとうございました。

さて、今日は、人付き合いの一番の基本であるあいさつの話をします。最近、私の知人２人から、同じような話を聞きました。「一中生は、道ですれ違うときに見ず知らずの私たちにもあいさつをしてくれて、とても気持ちがいいね。挨拶をされるとすごく温かい気持ちになる。」という話です。私が校長だから、言ってくれているのかもしれないですが、そうだとしても、とてもうれしかったです。部活動や文化活動での華々しい活躍もうれしいけれど、ひっそりと目立たないけど、人の気持ちを明るくしてくれる一中生がいることが本当にうれしくて、そんなことができる一中生を私は誇りに思いました。

ＧＷ開けには、風紀委員を中心に、生徒会本部やボランティアの皆さんのべ200人以上の人が参加して、一中の玄関、村上南小学校、瀬波小学校での挨拶運動が行われました。毎年のことながら、この挨拶運動が終わると挨拶のレベルアップを感じます。これまで、声をかけても何事もなかったように通り過ぎていた人が、会釈を返してくれるようになったり、なかなか声が出なかった人が、声も一緒に出せるようになったり、今まで私が先に挨拶をしていた人が、先に声を出してくれるようになったり。皆さんの成長が実感できます。これが挨拶運動の良いところだなと感じています。

中学校は大人になるところですが、大人として認められるためには、やはりあいさつがきちんとできることが必要不可欠です。学校だけでなく、一般の社会に出ても、自分から笑顔で挨拶ができることは、人付き合いの基本です。一中はありがたいことに、これまでの先輩たちのおかげで挨拶が良い学校という評価をいただいています。この伝統をしっかりと引き継いでこれからも、笑顔でのあいさつを心がけていきましょう。